

福岡県知的障害者 施設保護者会連合会 ニュース

第34号
平成25年
11月1日

発行
福岡県
知的障害者施設
保護者会連合会
(略称:福施連)

札幌大会に六四八名が熱く語り合う

知的障害をもつ人の生涯を考える 新しい生活施設像とは？

全施連全国大会が、日毎に紅葉が鮮やかになりつつある北海道札幌市で開催されました。大会会場には行事に先立ち前夜祭が企画され、21日午後6時からディナーショー形式で始まり、地元北広島福祉会の和太鼓演奏、バンドショーに続いて施設利用者のファッショ、ショーが演じられました。かなり高齢の方もおられましたが、日頃の指導、練習の成果とみられる舞台姿でした。最後は歌謡ショーと幼児（7歳）の舞踊でしたが、利用者の笑顔と一所懸命さが参加者の胸を打ったようで、大拍手で終わりました。

福施連からの大会参加者は25名で、その内前夜祭参加は10名、前夜祭参加総数は139名でした。

翌22日、全国大会は午後1時からホテルライフォートの2階大間で開催されました。

舞台正面には北海道知事、札幌市長、福祉協会全国会長などの来賓とともに、自民・民主・公明・維新・共産・みんなの党他各政党の代表の顔が揃っていました。

2009年の松江大会では、各政党に案内したにも関わらず出席は共産党代表だけであったこと比べれば、全施連組織の強化と知名度

が格段に広がったことを表していました。

会場には、各県支部から214名、北海道各地域から434名の親・家族・保護者計648名が着席している中で、由岐全施連理事長の主催挨拶が行われました。

13時30分から「新しい施設像とは」と題して埼玉大学准教授・宗澤忠雄先生の基調講演が始まりました。

講演の内容は「日本はこれから世

界に類を見ない少子・高齢化の時代を迎え、障害のあるなしに関わらず福祉は必要なサービスを担う地域社会の基幹産業となる。

離婚率は年齢を問わず高くなり、結婚しない男女も増える一方、全国各県で人口が減りつつある。

快適に暮らせる施設づくりを縁にして、核家族化した家族の困難を克服できる施設であること、暮らしの場は看取りの場であることは当然である。

然である。

血のつながらない人たちが血縁者と同じように慈しみ合う人間関係が創られる施設を考えよう」と、今後の全施連の活動方向を語られました。

15時からは基調講演に基づいて前記の宗澤先生、北九州大学教授の

活動・決算報告と由岐理事長の情勢報告

23日午前9時から岩本副理事長がこの一年間の活動報告と決算報告を行い、続いて由岐理事長から最近の中央情勢報告が行われました。

「政府は、社会保障制度改革推進法で福祉は「自助・共助・公助」が基本だとしており、障害者だけでなく高齢者・子育てなど福祉を必要とする政策の削減を目指している。障害者福祉は、契約制度・区分による日割り計算の現金給付ではなく、その人らしく生きられる現物給付に改正するべきだ、

自己責任が取れない知的障害者にとつてあれもこれも憲法違反であるし、その憲法を解釈改憲して法制化している」と報告して、全施連の活動強化と組織の拡大を訴えました。

10時から12時まで「終の住処は

小賀先生、神奈川県嶋田副会長、北海道平山副会長、福岡県八木会長をシンポジストに、南副理事長は軽妙な司会(?)で発言を促し、フロアにも赤白のカードで意思表示を求めてなど、会場全体を巻き込み沸かせたシンポジウムになりました。

どこですか」のテーマで由岐・南・岩本正副理事長を前に全員参加の討論会で熱心な発言が交わされました。

その後、大会決議文を拍手で採択し前夜祭を含めて三日間の札幌大会を終わりました。(以上要旨)

全施連第2回 理事会の報告

23日13時半から全施連理事会が開催され、会費値上げの件、26年度愛知大会の準備進捗状況報告、27年度、28年度の大会予定などが論議されました。会費値上げ案は、福施連では7万7千円になるB案を2月の理事会に提案予定ですが、3〜4倍になる支部は段階的に考慮することになりました。